

中小企業景況調査報告書

2021年10～12月期実績

2022年 1～ 3月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。
調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

- ①調査対象時期：2021年10～12月期の実績及び2022年1～3月期見通し
- ②調査期間：2021年11月4日～11月15日 ※調査時点は2021年11月15日

(2) 調査方法

- ①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
- ②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

- ①人口 ～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別枝幸町、安平町、大樹町、広尾町、標茶町
- ②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町
- ③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	52	47	90.4%	小売業	86	82	95.3%
建設業	46	44	95.7%	サービス業	116	109	94.0%
				合計	300	282	94.0%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

(5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。
例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は50-20=(+)30となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況(前年同期比、前期比の推移) ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前 期 比					
	今期	来期見込	R2. 10-12	R3. 1-3	R3. 4-6	R3. 7-9	今期	来期見込
製造業	▲ 19.6	▲ 27.5	▲ 22.9	▲ 27.6	▲ 12.8	▲ 18.8	▲ 31.1	▲ 11.1
建設業	2.3	▲ 11.9	▲ 7.0	▲ 18.6	0.0	▲ 7.0	7.2	▲ 23.3
小売業	▲ 42.0	▲ 26.6	▲ 32.0	▲ 47.5	▲ 30.5	▲ 28.0	▲ 28.8	▲ 27.8
サービス業	▲ 25.3	▲ 24.7	▲ 40.3	▲ 62.0	▲ 42.4	▲ 36.7	▲ 23.3	▲ 26.8

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業 主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R3. 1-3	R3. 4-6	R3. 7-9	今期	来期見込
業況	好転した	15.2	5.0	6.4	14.9	10.4	6.7	15.6
	不変	50.0	62.5	59.6	57.4	60.4	55.5	57.7
	悪化した	34.8	32.5	34.0	27.7	29.2	37.8	26.7
	D・I	▲ 19.6	▲ 27.5	▲ 27.6	▲ 12.8	▲ 18.8	▲ 31.1	▲ 11.1
売上(加工)額	増加した	19.1	6.4	12.8	24.5	33.3	10.9	
	不変	46.9	68.1	14.9	34.7	33.4	43.4	
	減少した	34.0	25.5	72.3	40.8	33.3	45.7	
	D・I	▲ 14.9	▲ 19.1	▲ 59.5	▲ 16.3	0.0	▲ 34.8	
資金繰り	好転した	8.5	4.3	2.2	6.4	6.4	0.0	
	不変	70.2	70.2	73.9	57.4	78.7	82.6	
	悪化した	21.3	25.5	23.9	36.2	14.9	17.4	
	D・I	▲ 12.8	▲ 21.2	▲ 21.7	▲ 29.8	▲ 8.5	▲ 17.4	
原材料仕入単価	上昇した	65.2	50.0					
	不変	32.6	45.7					
	低下した	2.2	4.3					
	D・I	63.0	45.7					
採算(経常利益)	好転した	10.6	10.6					
	不変	55.4	59.6					
	悪化した	34.0	29.8					
	D・I	▲ 23.4	▲ 19.2					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

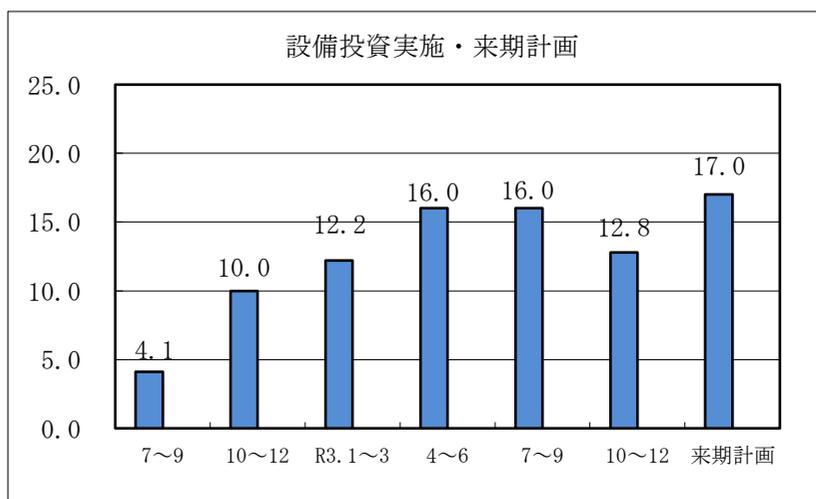
回答47事業所の内、6事業所(12.8%)が実施。

●生産設備、車両・運搬具=各3事業、●OA機器=1事業所

【来期計画内容】

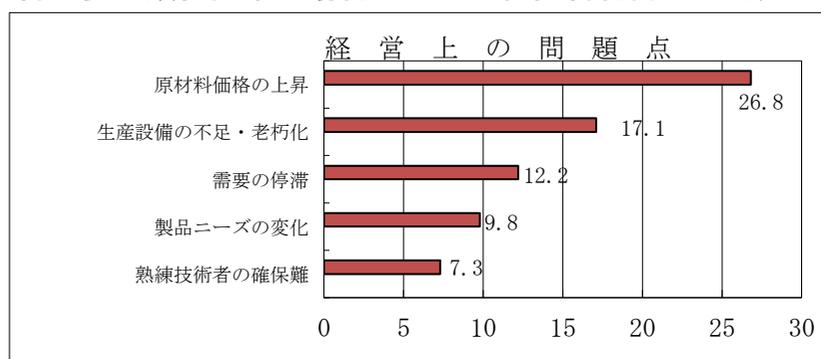
回答47事業所の内、来期に8事業所(17.0%)が計画。

●生産設備=6事業所、●付帯施設=2事業所、●工場建物、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回2位の「原材料価格の上昇」で前回より13.5ポイント増加している。2位は前回4位の「生産設備の不足・老朽化」で6.0ポイント増加している。3位は前回1位の「需要の停滞」で12.2ポイント減少している。4位は前回3位の「製品ニーズの変化」で3.5ポイント減少した。5位は前回番外の「熟練技術者の確保難」で0.6ポイント増加した。また、前回5位の「その他」は11.1ポイント減少し番外となった。



建設業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R3. 1-3	R3. 4-6	R3. 7-9	今期	来期見込
業況	好転した	16.3	2.4	11.6	19.0	9.3	16.7	2.3
	不変	69.7	83.3	58.2	62.0	74.4	73.8	72.1
	悪化した	14.0	14.3	30.2	19.0	16.3	9.5	25.6
	D・I	2.3	▲ 11.9	▲ 18.6	0.0	▲ 7.0	7.2	▲ 23.3
完成工事 (請負工 事) 額	増加した	27.9	18.2	20.9	29.3	38.1	25.6	
	不変	46.5	54.5	37.2	39.0	42.9	46.5	
	減少した	25.6	27.3	41.9	31.7	19.0	27.9	
	D・I	2.3	▲ 9.1	▲ 21.0	▲ 2.4	19.1	▲ 2.3	
資金繰り	好転した	11.9	7.0	2.4	14.6	7.3	9.5	
	不変	81.0	81.4	80.5	73.2	87.8	83.4	
	悪化した	7.1	11.6	17.1	12.2	4.9	7.1	
	D・I	4.8	▲ 4.6	▲ 14.7	2.4	2.4	2.4	
材 料 仕入単価	上昇した	69.0	53.5					
	不変	31.0	46.5					
	低下した	0.0	0.0					
	D・I	69.0	53.5					
採算(経 常利益)	好転した	9.3	4.5					
	不変	67.4	72.8					
	悪化した	23.3	22.7					
	D・I	▲ 14.0	▲ 18.2					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

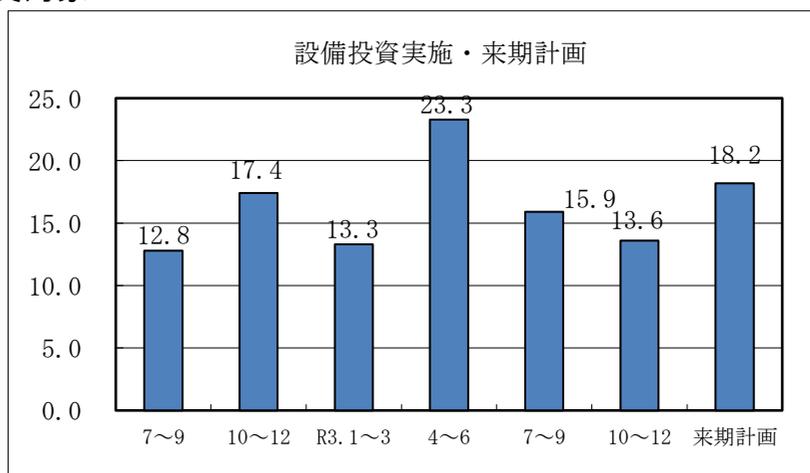
回答44事業所の内、6事業所(13.6%)が実施。

●建設機械、車両・運搬具、OA機器=各3事業所、●土地=2事業所

【来期計画内容】

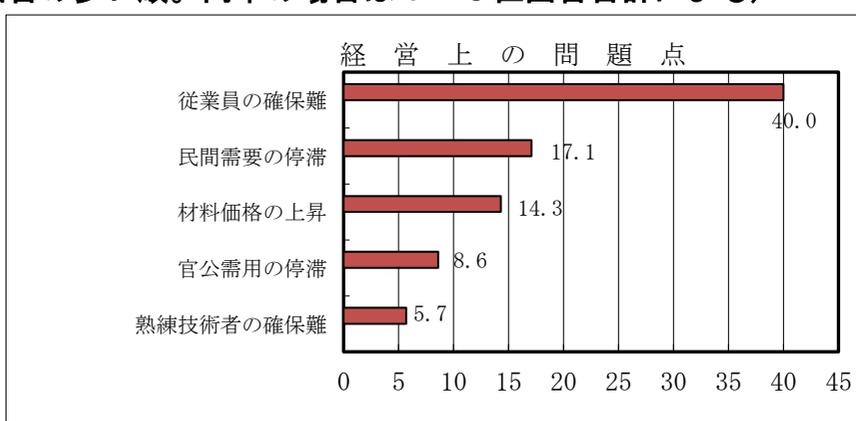
回答44事業所の内、来期は8事業所(18.2%)が計画。

●車両・運搬具=4事業所、●土地、その他=各2事業所、●建設機械=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「従業員の確保難」で前回より12.2ポイント増加している。2位は前回3位の「民間需要の停滞」で0.4ポイント増加した。3位は前回2位の「材料価格の上昇」で2.4ポイント減少した。4位は前回同様の「官公需用の停滞」で、5.3ポイント減少した。5位は前回番外の「熟練技術者の確保難」で2.9ポイントの増加であった。前回5位の「下請業者の確保難」で2.7ポイント減少し、番外となった。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R3. 1-3	R3. 4-6	R3. 7-9	今期	来期見込
業 況	好転した	3.7	6.3	6.4	4.2	8.0	8.2	8.9
	不 変	50.6	60.8	39.7	61.1	56.0	54.8	54.4
	悪化した	45.7	32.9	53.9	34.7	36.0	37.0	36.7
	D・I	▲ 42.0	▲ 26.6	▲ 47.5	▲ 30.5	▲ 28.0	▲ 28.8	▲ 27.8
売上額	増加した	11.0	12.2	8.4	20.5	28.9	22.2	
	不 変	36.6	51.2	37.3	42.2	33.8	44.5	
	減少した	52.4	36.6	54.3	37.3	37.3	33.3	
	D・I	▲ 41.4	▲ 24.4	▲ 45.9	▲ 16.8	▲ 8.4	▲ 11.1	
資金繰り	好転した	2.5	2.4	3.6	3.8	3.6	4.9	
	不 変	67.5	69.6	65.1	74.4	77.1	72.9	
	悪化した	30.0	28.0	31.3	21.8	19.3	22.2	
	D・I	▲ 27.5	▲ 25.6	▲ 27.7	▲ 18.0	▲ 15.7	▲ 17.3	
商 品 仕入単価	上昇した	39.5	34.6					
	不 変	53.1	59.2					
	低下した	7.4	6.2					
	D・I	32.1	28.4					
採算(経 常利益)	好転した	7.3	6.2					
	不 変	47.6	58.0					
	悪化した	45.1	35.8					
	D・I	▲ 37.8	▲ 29.6					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

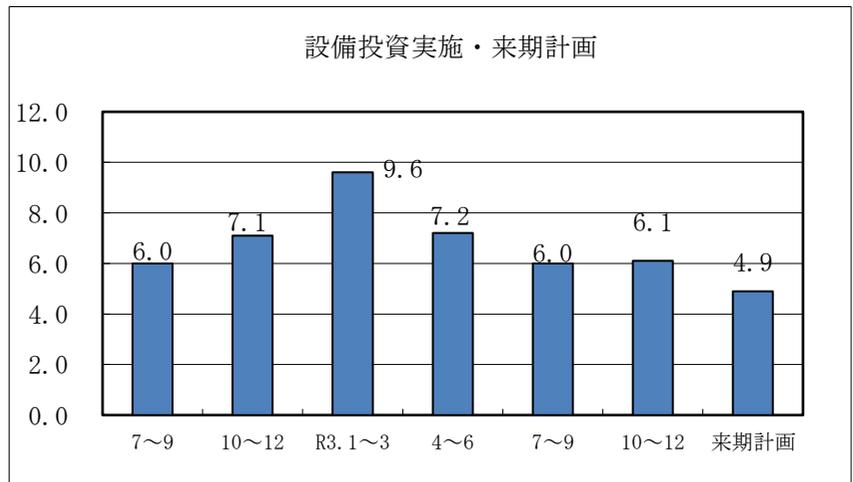
回答82事業所の内、5事業所(6.1%)が実施。

●車両・運搬具=3事業所、●店舗、OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

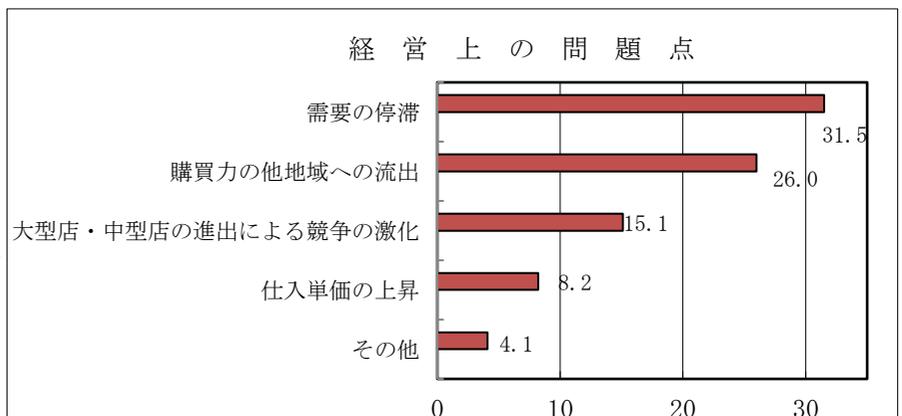
回答82事業所の内、来期は4事業所(4.9%)が計画。

●付帯施設=2事業所、●土地、販売設備、車両・運搬具、OA機器、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回2位の「需要の停滞」で、前回から2.2ポイント増加した。2位は前回1位の「購買力の他地域への流出」で7.3ポイント減少した。3位は変わらず「大型店・中型店の進出による競争の激化」で4.4ポイント増加した。4位は前回番外の「仕入単価の上昇」で4.2ポイント増加している。5位は変わらず「その他」3.9ポイントの減少となっている。前回4位の「消費者ニーズの変化」は2.9ポイント減少し、番外となった。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R3. 1-3	R3. 4-6	R3. 7-9	今期	来期見込
業況	好転した	14.0	8.6	1.1	5.1	5.9	13.1	10.3
	不変	46.7	58.1	35.8	47.4	51.5	50.5	52.6
	悪化した	39.3	33.3	63.1	47.5	42.6	36.4	37.1
	D・I	▲ 25.3	▲ 24.7	▲ 62.0	▲ 42.4	▲ 36.7	▲ 23.3	▲ 26.8
売上(収入)額	増加した	17.4	14.7	6.1	18.3	15.7	20.6	
	不変	35.8	49.5	29.6	33.6	49.1	38.3	
	減少した	46.8	35.8	64.3	48.1	35.2	41.1	
	D・I	▲ 29.4	▲ 21.1	▲ 58.2	▲ 29.8	▲ 19.5	▲ 20.5	
資金繰り	好転した	7.6	5.7	1.0	1.0	1.0	5.7	
	不変	61.9	65.1	54.1	61.1	71.1	65.7	
	悪化した	30.5	29.2	44.9	37.9	27.9	28.6	
	D・I	▲ 22.9	▲ 23.5	▲ 43.9	▲ 36.9	▲ 26.9	▲ 22.9	
仕入単価(材料等)	上昇した	38.9	28.0					
	不変	54.6	66.4					
	低下した	6.5	5.6					
	D・I	32.4	22.4					
採算(経常利益)	好転した	8.3	6.6					
	不変	48.2	54.7					
	悪化した	43.5	38.7					
	D・I	▲ 35.2	▲ 32.1					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

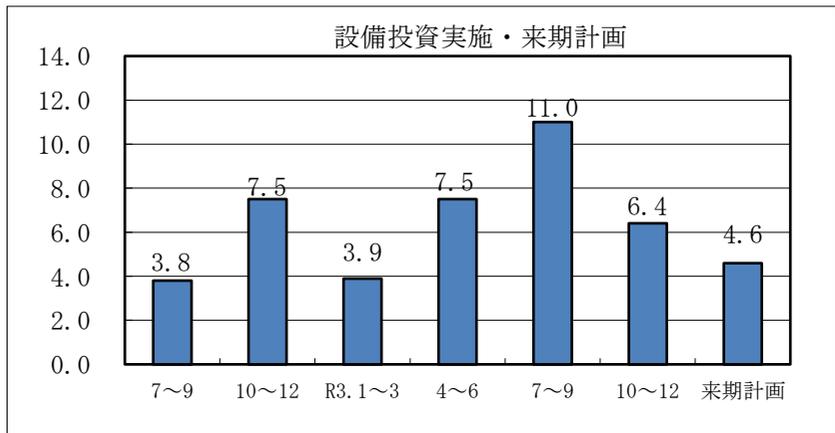
回答109事業所の内、7事業所(6.4%)が実施。

●建物、サービス、付帯施設=各2事業所、●車両・運搬具、OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

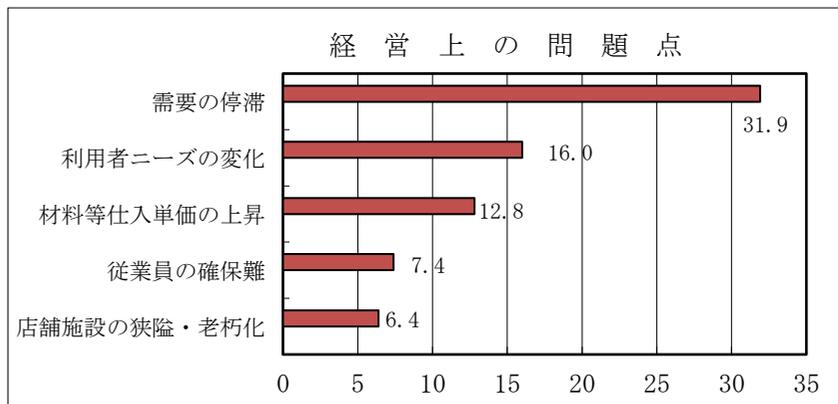
回答109事業所の内、5事業所(4.6%)が計画。

●付帯施設=3事業所、●サービス=2事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回と同じく「需要の停滞」であり前回より10.5ポイント減少した。2位も前回同様の「利用者ニーズの変化」で5.9ポイント増加した。3位は前回4位の「材料等仕入単価の上昇」で4.7ポイント増加した。4位は前回3位の「従業員の確保難」で1.7ポイント減少した。5位は前回番外の「店舗施設の狭隘・老朽化」であり、前回より0.7ポイント減少となった。前回5位の「その他」は1.7ポイント減少し、番外となった。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

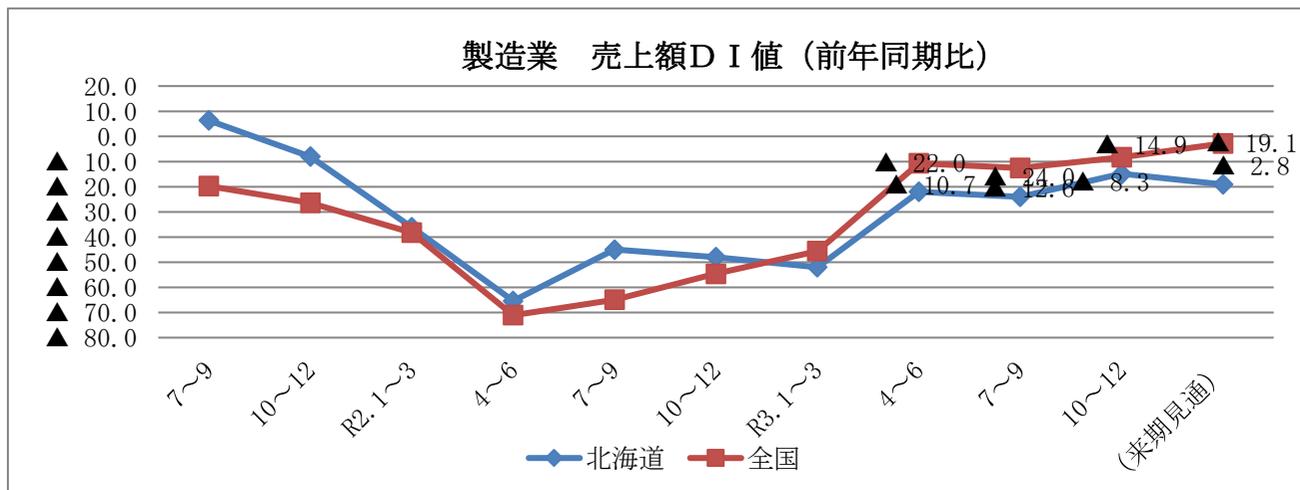
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

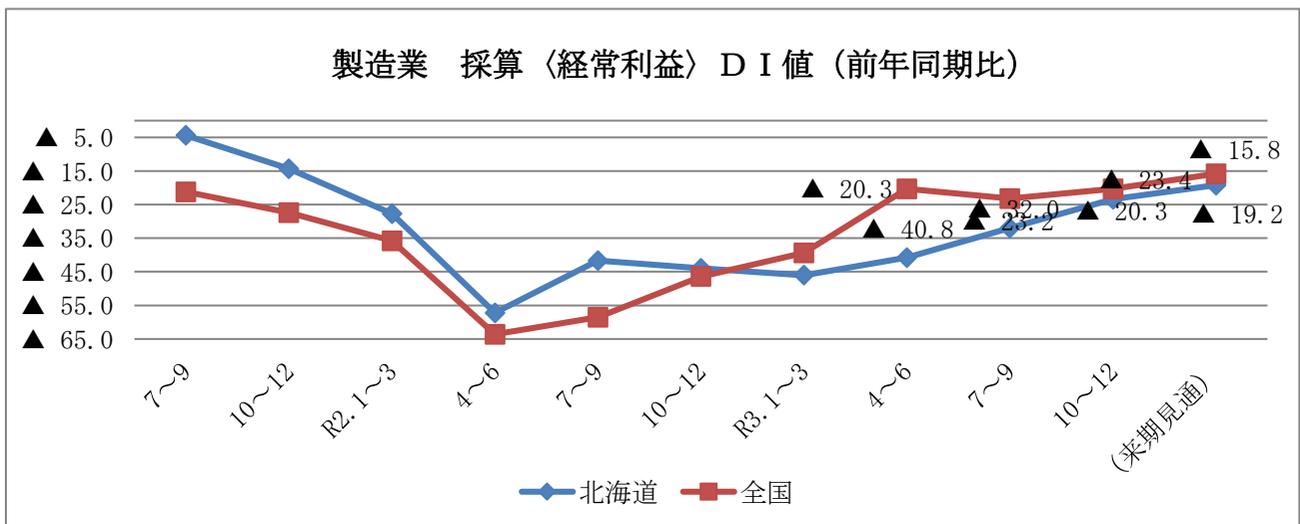
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

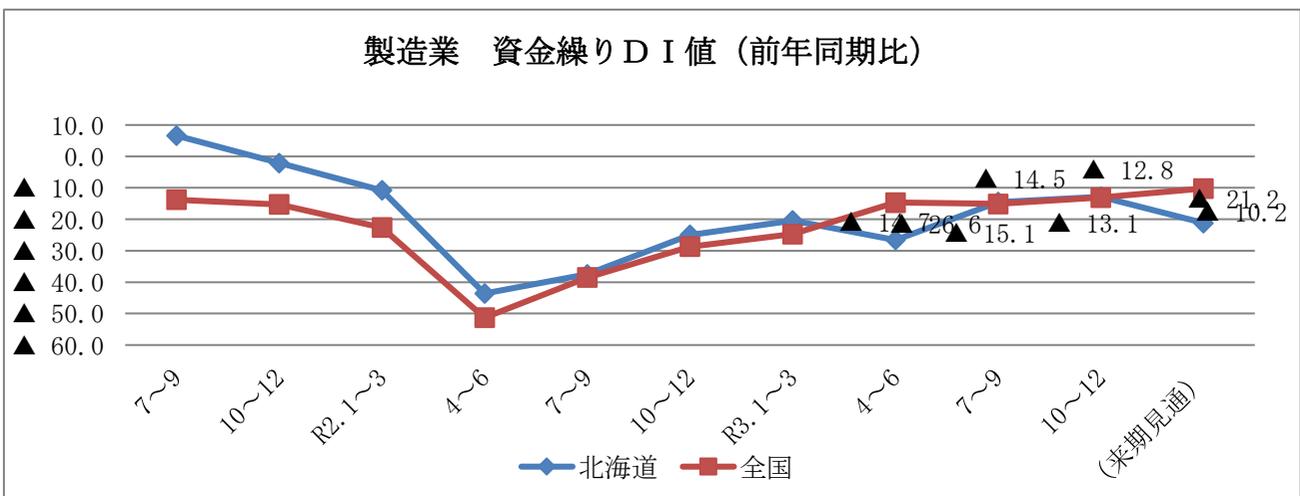
売上額



採算



資金繰り

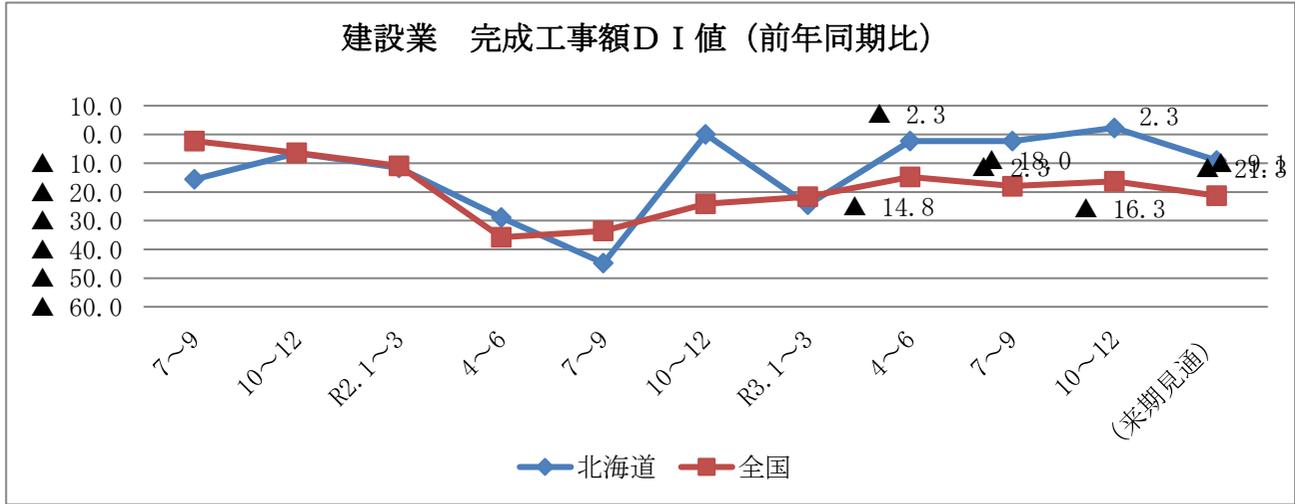


建設業

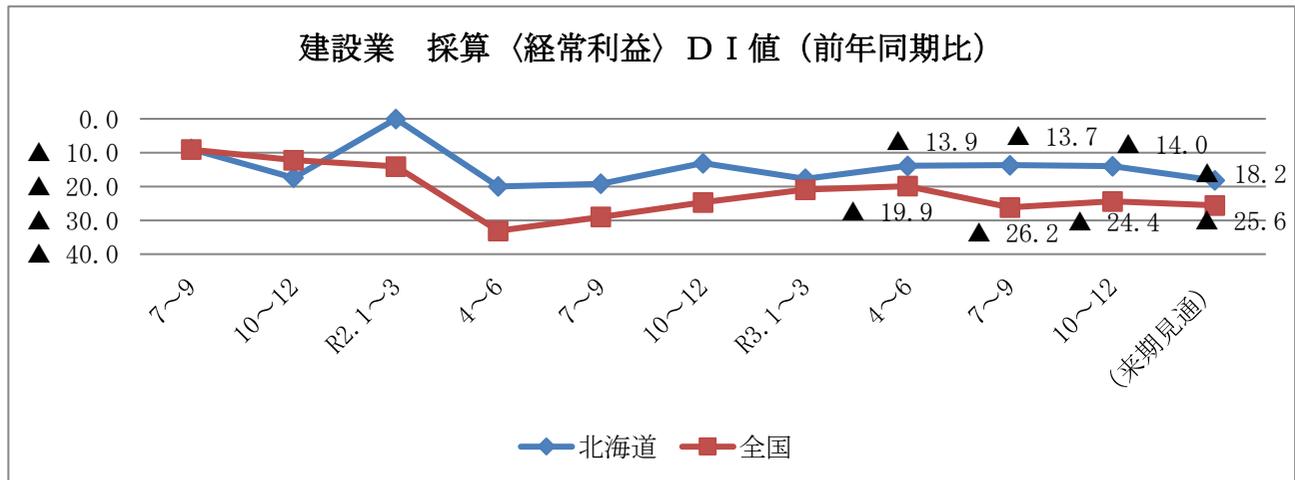
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

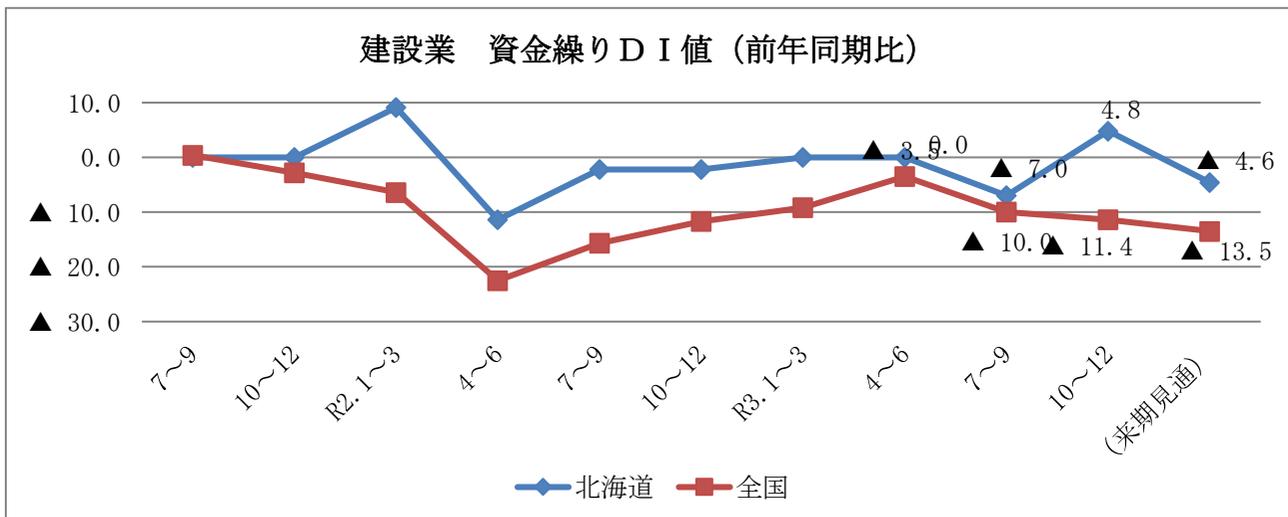
完成工事額



採算



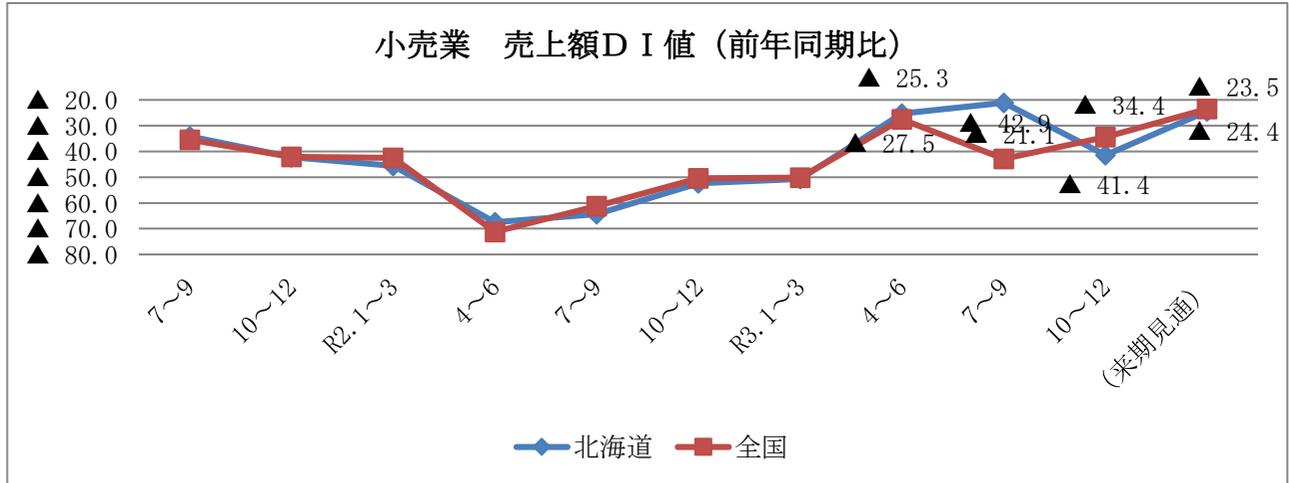
資金繰り



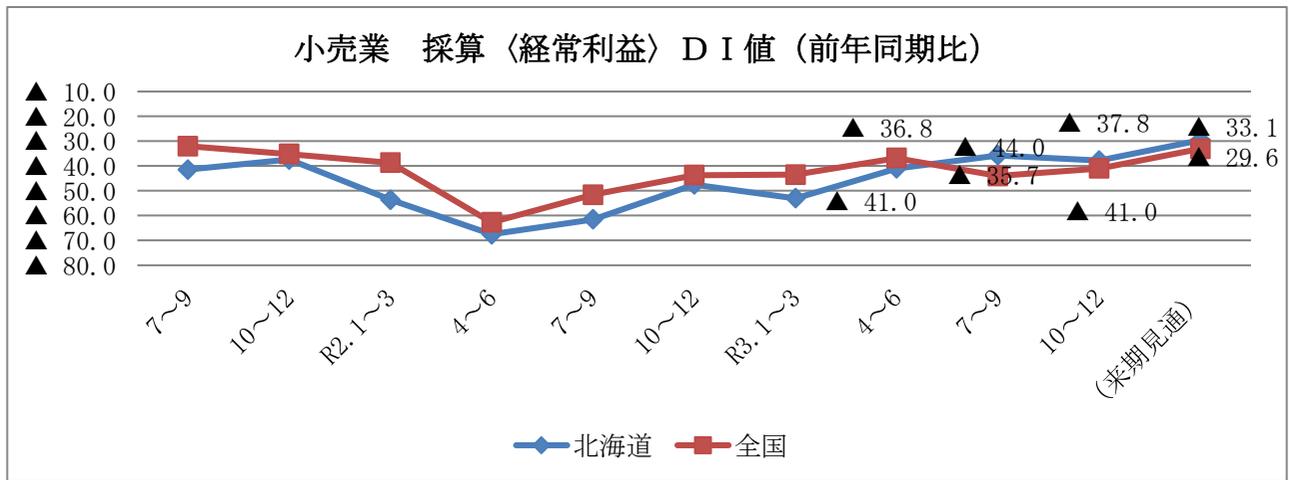
小売業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

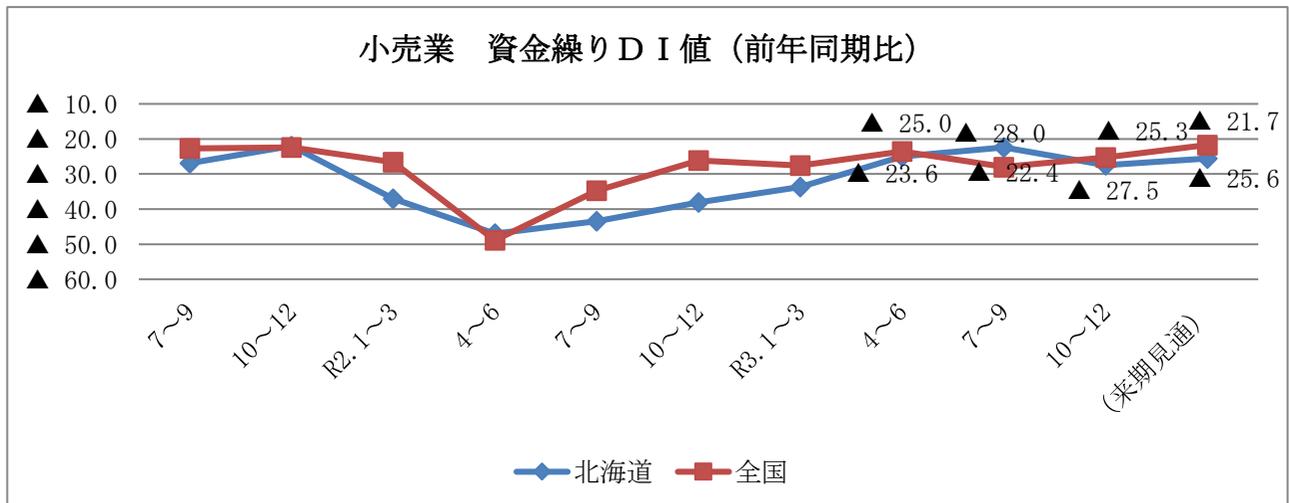
売上額



採算



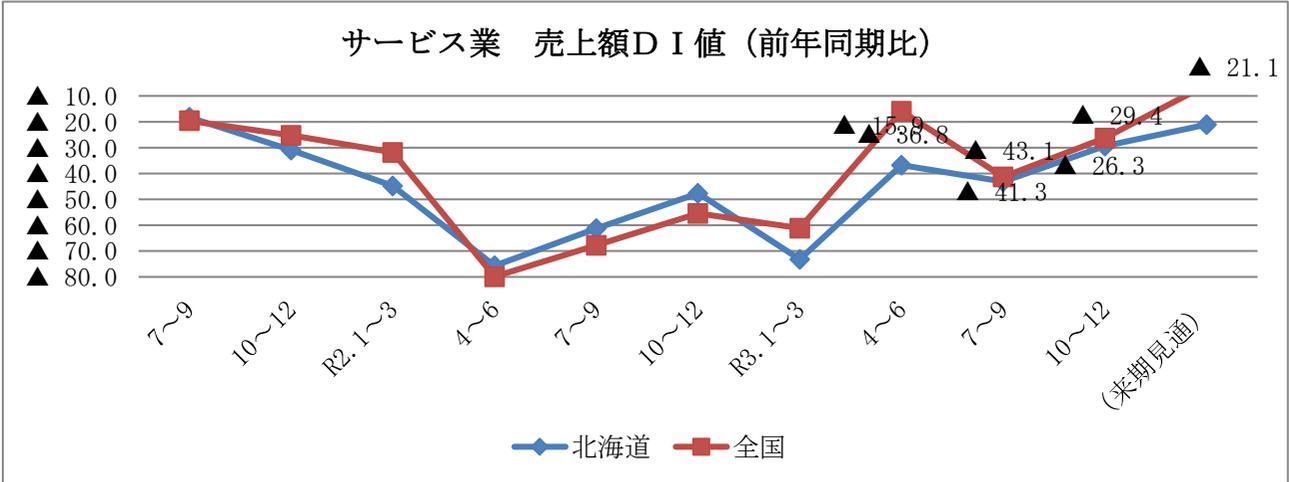
資金繰り



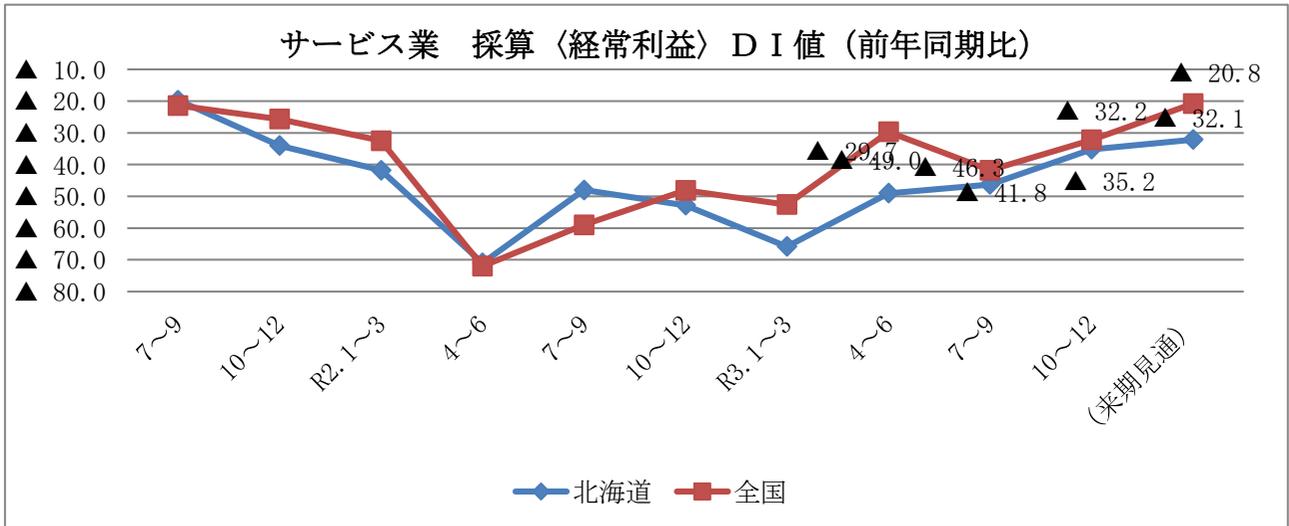
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

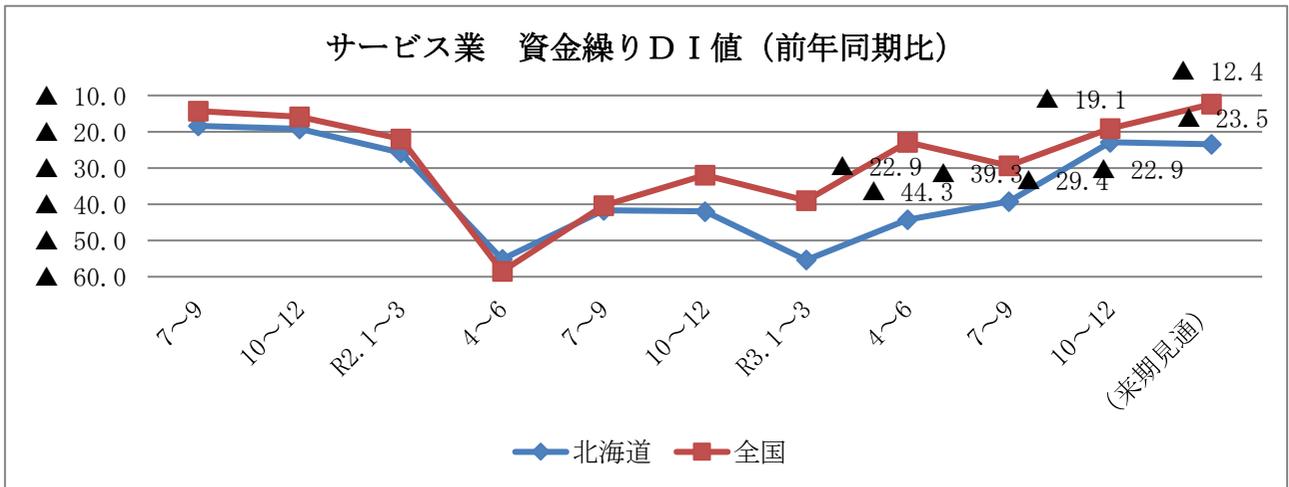
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>●少しずつ注文が増えてきているが、新しい人材を募集できる状態ではまだない。発注が来てから準備するナメシと違い、レーザーを前倒して在庫として確保できる様になるのが目標。需要がある商品をすぐ納品できるよう様にしていきたい。●催事が徐々に開催されてきているが、コロナ前にはほど遠い。●二年間のコロナ禍により、人の外出が慎重になっている。客単価が高いので救われている状態。●コロナの前の水準に戻るか不安。●請負元の仕事が減って回ってこない。●9月は緊急事態宣言を受け休業、11月は秋季休業のため、売上が減少しました。●今年に入ってから鋼材価格や輸送費の高騰が見られ、今後も上がり続けるか横ばいと予想されます。年度内はその状況を注視していく必要があります。●去年はコロナで売上が減少しましたが、今年は少しずつ発注が増加し売上が戻っている。ニーズの多様化、原材料の高騰で状況は厳しいが、今できることを続けるしかない。●徐々に原材料価格が上昇しつつあり、今後もさらに高騰しそう。●コロナの影響で売上が下がっている中、赤潮の影響でししゃもなどが獲れず魚価が高騰し、年末の商材が確保できないので今期は売上をつくるのに苦労しそう。●巣ごもり需要の減少により店頭売上が減少。更にはメイン商材のラム肉が11月より価格が暴騰し商品の規格変更、値上げを余儀なくされた。それに伴い今後はラム肉をメイン商材とするのは厳しい為、他の柱で補っていく。●新型コロナの影響による来客減少と原材料費の値上げにより利益が減少している。商品の値上げをしないとこの状況は越えられないと考えている。●当面札幌の百貨店が正常になることが我が社の望みであるが、コロナの第6波も予想され、百貨店販売間口も恐る恐る広げている中で、灯油価格の上昇、原材料高騰など、まだまだ予断を許さない状況が続くと思う。</p>
建設業	<p>●弊社の主要取引先であるホテルやマンション・ビル等の新築や改修等の業績が減少していることが理由だと考えております。新しい分野の事業案件を施主の方々と共に考える必要があると痛感しています。●需要が減っている。●材料が入荷されずコロナの影響を感じる。●燃料等の上昇により利益の減少が見込まれる。●引合いは年々増加しているが、従業員不足で受注できていない。新型CADソフトの導入やプレハブ工法の採用により作業効率は良くなったが、技術職員の育成が課題。●人手不足の深刻化だった選挙の影響もあり例年の9月発注年度末後期の工事が無いが、選挙の結果もあり国土強靱化に向けて対策を講じる等の政府方針が示されたが業況を見通す上でコロナを切っては議出来なくなった。●コロナ禍が一定程度落ち着いて、各国の経済活動が活発になるについて、資材の入手難、そして原油価格の高騰の影響を受けて、材料価格の上昇という三重の問題が発生してきて、経営に厳しい影響を与えている。</p>
小売業	<p>●緊急事態宣言の解除に伴い、人流の増加・消費の喚起の影響を受け、客数の増加が明白。ただコロナウイルスの影響もあり、原材料の高騰、確保難が続き、仕入単価の上昇が続く見通し。人が動く分、今後さらに従業員の確保が難しい。●状況は変わらずゆっくり悪化していくと思われる。●灯油価格が上昇し仕入額が増える。●客数が減っている。●年々、客が減っている。●ガソリンの仕入れが上がっている。●コロナの影響で客が減っている。●人口が減っているため年々売上は落ちている。●かつてのお得意様が高齢化した事とやはりコロナ第一の状況です。●コロナが終息しないと売上が元に戻りません。ガソリン、灯油が高くなって困っています。●道外、海外からのお客様は現況かなり少なく、1、2年はまだ来ないだろうと推測している。データから見ても前年を維持するのがやっとの状態から、経費を抑えることで利益を維持している。●新型コロナは減少しているがこの先の状況変化が気になる。●コロナが落ち着き、今後期待していたが、灯油やガソリンの値上がりに伴い、必要経費が思った以上にかかる。●人口も減り、人出が減少したため、年々売上が減っている。●新型コロナウィルスによる影響が落ち着いてきた。●大口の顧客が高齢化等により亡くなり、売上が減少している。赤潮の被害により魚介類の仕入れが減少した。●アフターコロナでの物流が読めない。ニーズが掴みづらいのと観光の復活時期が土地柄、半年後なので同じことをしてよいのか判断に迷う。外販は伸びてきていると感じ、手薄なECへの再進出を検討中。●去年はブリの処理量が減少したが、タラの処理が増え例年並みの売り上げが確保出来た。年末年始に向け、需要が有るタラの処理が続くことを期待している。</p>

サービス業

●来店サイクルの長期化とお客様の減少でダメージが大きい。●仕入れは高いし経費は値上がり客は安いものしかたのまない値上げは出来ないので苦しい。●10月が思ったよりも良くなかったので11・12月に期待したいですが、ガソリンが高くなってきて車を使うのを控える人も出てくるのではと心配です。●緊急事態宣言解除で10月は利用客数が伸びたが、逆に9月迄は宣言の為に客数は非常に少なかった。政府のコロナ対策に振り回されている。インバウンド観光客の制限がいつ解除になるか適正な判断を期待する。●休業要請解除後も客の戻りが悪い。●夜の客が減っている。●9月以降もコロナの影響でキャンセルがあり売上が減少している。●夜の客が少ない。材料が高くなっている。●単価の低い施術が増えた。商品の売上も低下。まだまだコロナの影響もある。また高齢化が進んでるので施術内容が変わった。●緊急事態宣言があけてから、少しずつ固定客や新規来店者が来ているが、昨年度の6割程度。支援金で資金繰りは影響出ていないが、売上回復に努めていく。●新型コロナ感染拡大の影響を受け、利用客が減少したものの、支援金制度を活用することで資金繰りは悪化していない。●9月から町議会選挙があり、選挙に集中したため、8月に比べて売り上げが落ちている。現在、売り上げは新聞販売業を始めたので安定しているが、ガソリン単価の上昇により、経費が圧迫している。●業況的に好転と判断しましたが、大口の売掛金回収に難があり一時的な借入れをしての結果です。短期間での回収が見込めない場合は経営を圧迫するので、なるべく避けたいところではありますが避けられないのが難しい。●取引先がニーズの変化により、先が見えない状況はこれからも続くと思われる。今期予定していた事務所と車庫のリフォームは延期した。オンデマンドの多様化による影響は大きい。●コロナワクチンの接種率が上がり感染者が減り、人々が通常の暮らしに戻りつつある分、宿泊客もゆっくりではあるが増加傾向にあると感じます。●行事や催しもなく、外出する機会が減っている状況なので、散髪の高頻度が減っている。●お客様が外へ出なくなったので、依然客足は戻っていない。それに加え原材料の単価が上昇しており、厳しい状況にある。●お客様の減少で、売上が伸びず厳しい状況です。●コロナ禍になり、すべて任せるとの依頼が多くなり内容はいい方向になっている。また、コストを見直し合理化しながら今の価格をキープしお客様に負担をかけずに収益を上げられるようにしていくことが出来ている。●前回同様、コロナ禍での経営の変化が大きい。お客様の变化もだが店側も変わっていかねばならない。●新型コロナと燃料費の高騰で売上の増加と利益が望めず大変です。●新型コロナウイルス感染症により、引き続き、宿泊客が減少しました。●長引くコロナの影響で人の動きが止まったままです。今後ワクチンのおかげで感染者も減少しつつあるので、12月の人の動きに期待したいです。●客の固定出来る業種で、とりわけ目に見える変動がないのが強み。●カラオケ店の需要が伸びず、コロナの影響がまだひびいているようだ。